

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392400079		
法人名	株式会社Lily's		
事業所名	グループホームごんの里		
所在地	愛知県半田市岩滑町2-22		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成24年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392400079&amp;SCD=320&amp;PCD=23">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2392400079&amp;SCD=320&amp;PCD=23</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区熱田区三本松町13番19号
訪問調査日	平成24年2月21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人間らしい生活、アットホームな環境を提供している。時間がゆっくり流れるのを感じていただけるよう、お年寄り本位の生活を心がけ、動きのある生活を送っていただいている。お年寄りの方との外出を多く取り入れ、買い物、喫茶店、外食等、気軽にいけるところはほぼ毎日出掛けるようにしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の特養での経験から、「ここは家庭である」を目指し、利用者の生活を支えている。ホーム内は木造の和風の造りとなっており、リビングにはほのかに木の香りが漂っていることで、落ち着いた気分になり、居室の入り口が障子戸になっていることや居室にも木を取り入れていることで、家庭的で利用者のこれまでの生活と似た環境を続けられる雰囲気がある。さらに、協力医とは24時間連携がとれ、医師と看護師の支援があり、緊急時にも柔軟な指示が受けられており、実際に利用者の急変があった時にも的確に対応している。その上で、来年度2ユニット目を隣接地に開設するのを機会に、看取りの体制も検討中である。また、地域との繋がりについても、ボランティアの受け入れ、地域の災害訓練にも協力していること等、前向きに活動している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	アットホームな環境で『施設』ではなく『家』でお年寄りと共同生活をしているという意識を持って生活している。	理念として特に掲示はしていないが、管理者の思いは新入職員に、その都度伝えている。職員も「ここは施設ではなく、家庭である」と認識して利用者に接している。	今後、2ユニット体制になることで職員が増えるため、管理者が日常的に職員とふれ合う機会が減ると思われる。理念を文章化し、今までと同じような支援が続いていくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩、地域の行事には積極的に参加し、地域に根付いていけるよう努力している。	町内会への加入の他、今年度は回覧板を回してもらえるようになったことで、地域の行事の知らせを受け、餅投げ、祭礼、防災訓練等に参加している。また、地域の区民展には、ホームの書道教室での利用者の作品を展覧している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に行われる福祉ネットワーク等の会合に参加し、一般の方たちにも認知症の方に対する理解を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議で、地域の方にも参加してもらい、行事報告や、施設の現状など報告している。	毎回出席している地域の区長からは、地域内の情報を頂き、外出の機会を得ている。さらに、事故報告とホームの取り組みを率直に伝えることで、ホームと利用者への理解を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも1名～2名参加してもらい、常に実情を伝えている。	管理者は入居者利用状況票を、毎月市の担当部署へ出向いて届けていることで、定期的な情報交換の機会としている。その関係から、相談したいことがあれば随時連絡して迅速な解決に繋げ、運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は常に開放しており、身体拘束は一切ない。	知らずに外出する利用者の行動の目的や原因を職員間でも検討し対応することで、玄関を施錠せずに見守りを徹底して利用者寄り添うように努めている。また、運営推進会議でも報告し、地域の方に理解してもらうよう取り組んでいる。	新たな職員が加わってくるため、この機会にホームの基本的姿勢、利用者への接し方等を話し合うことにも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員持ち回りで勉強会を開催し、虐待に対する知識をもってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今のところ実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族に説明し、入居後も疑問点があればすぐに対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、家族の意見を聞き、また、定期的に家族会を開いて意見交換の場を設けて反映している。	家族会を年2回開催し、利用者と一緒に食事をすることや、家族と職員が飲食店に集まる機会をつくること等、家族間の交流や意見、要望の吸収に努めている。また、運営推進会議の資料を送付する際には、ホームでの様子を写真に撮って添付して送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1カ月に1度、職員会議、カンファレンスで職員の交流を行い、反映している。	毎月1回の職員会議には、基本全職員が出席して、管理者の運営に関する方針や考え、地域の行事等を報告している。日頃から職員から言いやすい雰囲気をつくるように努め、直接管理者に話すことがあれば、時には計画作成担当者を経由して話すこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の交流が盛んなため、職場の環境について、良いことも悪いことも話し合っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の良いところを褒め、伸ばせるところは伸ばしていけるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に行なわれる会合に積極的に参加させてもらい、得た知識を職場に持ち帰って実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見を尊重して、不安などを受け止め、困っていることがあればその場で傾聴するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込の段階で家族の困っていることを聞き、入居後、すぐ実践できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	双方の意見を取り入れ、今をいかに生き生きと過ごせるかを前提に話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという意識は捨て、一緒に生活をしている、させてもらっているという意識を持つよう職員に伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を敬う家族が多いため、家族の想う気持ちを大切に、慎重に話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前勤めていたところや、昔いきつた喫茶店やスーパー、知人が勤めているところに外出として職員と一緒にいたりしている。	親族が経営している馴染みの喫茶店への外出、家族と外食をしたり、正月に家族と過ごしたり、利用者の親族が訪ねて来ることもある。また、利用者の行っていた場所を調べたり情報を得て、そこへ出掛けることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	グループホームでは珍しく、入居者同士での会話が垣間見れ、お互い支えあい、たまには喧嘩をしたりしてとてもいい雰囲気です生活している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族会等、行事に参加して頂けるようお知らせしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者とスタッフがのんびり話す事のできる時間があるため、本人の希望を伺いながらケアを進めている。センター方式を活用し、本人の希望、意向を記入しているが、更新頻度が少ないことが課題。	入居時には、家族にもアセスメントシートに書き込んでもらい情報を集め、入居後は職員の気づきを加えたり変更している。利用者からは散歩や入浴時等の機会に聞いている。なお、ホームでは担当制を採っており、利用者の日頃の様子や一言を大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、生活暦等の項目をご家族に直接記入していただくようにしている。記入された内容はいつでも見ることができ、サービス担当者会議等でも話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録にて1日の様子、心身の状態等を記入し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会にみえたご家族から意向を確認したのち、サービス担当者会議(スタッフ全員参加)を開催している。会議は、専用のアセスメント及びモニタリング用紙を使用して進め、可能な限り本人及び本人に係る者の意見を介護計画に反映している。	カンファレンスは全職員が出席して、午前中に行っている。基本、毎月3人を検討して、サービス内容を更新し、家族に伝えている。また、ホーム独自の様式を利用しながら、利用者の思い、希望をとり入れた介護計画の作成と職員間の情報共有に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日々の様子や支援内容を記入し共有している。可能な限り細かい内容も取り上げて介護計画に反映し、計画は3ヵ月毎(1ヶ月後)に必ず更新している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域行事への参加を積極的に行い、地域の方々と共に本人を支えられる体制作りを目指している。ホーム内行事へのお招きや家族交流会の開催などにより、ご家族からご意見を頂きやすい環境にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事、近隣スーパーへの買い物等、できる限り資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	少しの状態の変化も逐一、主治医に連絡し、指示を仰いでもらっている。時には、写真をメールにて送りそれをみて判断してもらっている。	月2回協力医の往診があり、協力医とは昼夜間を問わず、随時電話やメールを利用して指示を仰ぎ、適切な指示が得られる体制となっている。その他の整形外科等の受診については基本家族が行うが、緊急時等には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	実績なし。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ入院したケースはないが、提携病院の相談室に定期的に行き、万が一に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院の際、しっかりと説明した上で、並行して他施設へ入居の申し込みをしてもらっているご家族もある。	ホームは協力医と柔軟に連携しており、重度の方の受け入れと支援は可能であるが、現状、入居時にホームでの対応について説明した上で、看取りまでは行っていない。来年度、ホームが2ユニットになることで、看取りの指針と体制を検討を考えている。	現状、重度化している利用者を受け入れていることもあり、看取りについての指針を家族に説明し、同意と協力を得ること、職員研修の実施等を行いながら、ホームとしての体制を整えていくことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成、デスクには常に目のつくところに置いてある。また、新人職員には緊急時の対応についてしっかりと説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防点検、年に2回の避難訓練には職員全員が参加をし、消防署の協力も得ている。町内の防災訓練にも積極的に参加している。	消防署も立ち会っての夜間想定避難訓練を実施し、地域の区長や民生委員の参加もあり、理解を深めている。また、ホームとして警備会社と契約をしており、夜勤者は通報器を身に付け、利用者及び職員の安全を図っている。	今後、ホーム利用者と職員が増えることもあり、緊急時にも柔軟に対応するために、地域との連携強化及び食料や水の備蓄を十分にされることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に同じ目線で声かけるよう心がけている。言葉遣いには特に注意し、職員同士でも声を掛け合っている。	入居時に家族から聞いた利用者の生活歴から、職員間で情報を共有している。利用者の何人かが同姓で、下の名前で呼び掛けているが、言葉遣いには配慮している。また、入浴時に丸見えにならないように、脱衣場について立を使用し、羞恥心にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	嗜好や外出など、常に利用者のニーズを受け入れるようにしている。何気ない会話から本人の希望を聞きだすことをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の意思を受け入れ、外出なら、本人の希望されるところにお連れし、入浴なら入りたい時間に入って頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事の際には、お化粧をしたり、外出の際には普段は着ない服を着ておしゃれしたりと身だしなみにも配慮している。女性入居者の方は、家族に依頼して美容院に連れて行ってもらっている人もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好に合わせて、一緒に買い物にいき、好きなものを買って提供している。食事の準備、片づけはほぼ毎食手伝っていただいている。誕生日には本人の好きな食事を提供している。	献立は利用者と一緒に考え、7日前からのメニューと重ならないように配慮している。食材は利用者と近くのスーパーへ買い物に出掛けて、下ごしらえ、食器拭き、おしぼりを畳んだりする方もいる。なお、食事は職員も同席し、楽しい食事に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量に制限がある方には少なめにし、減塩の食事が必要な方にはそのように提供、調理している。水分量、食事摂取量は毎日記録にて確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者全員口腔ケアを行うようにしている。自分でできる方は声かけ、見守りをしている。本人にあった口腔ケア器具を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ類は極力少なくし、人間らしい生活を送っていただくよう支援している。無理強いせず、記録などを見て排泄パターンを理解したうえで支援している。	オムツを利用して排泄していた方について、職員からの意見もあり検討を重ねた結果、トイレの便座に移乗して排泄することができるようになった。その他の方についても、排泄状況に合わせ、紙パンツから布パンツとパッド使用となった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方が数名いるため、水分強化や、センナ茶、トイレでの工夫等、主治医の指示をもらいながら本人に合わせた予防法を導き出すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後、夕食前、夕食後など、今までの入浴時間を本人、家族から情報を収集し、希望に添って入浴していただいている。	週3回程の入浴であるが、毎日のように入浴することも可能であり、時間についても一人ひとりの状況や希望を見ながら夕食後に入浴する方もいる。また、浴槽は檜で木の香りを楽しむことができ、基本入浴剤は使っていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に日中は活動してもらうようにしているが、本人の状態、表情を見て、居室で休んでいただいている。起床時間も本人の生活に合わせて起床してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルはもちろん、飲んでいる薬の名称、効能、副作用を網羅した表を作成して、いつでも見れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて、できる所まで行なっている。役割を持ってもらい、満足感を得られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の方でもなるべく外出してもらえるよう、事前に計画を立て、職員配置をしている。買い物、喫茶店、外食は行ける日、行ける方はなるべく参加している。	近くの神社や喫茶店へは日常的に出掛け、近所の方と挨拶を交わしたり、買い物、外食も行っている。さらに、普段行けない場所への外出として、市外のビール工場に出掛けて楽しんだり、道の駅、四季の花などの見物にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時は、なるべく本人に払っていただいている。全員事務所でお小遣いは管理しているが、本人持ちの小遣いも持っている方がいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	知人に手紙を出したり、電話したいという方には職員が援助し、本人の希望にそえている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内はすべて木を使用し、特にお風呂は檜風呂を使用している。季節によってホーム内の至る所に花を生けたり、飾ったりしている。	和の雰囲気ですべて統一されたホーム内は、自宅にいる雰囲気ですぐることができる。壁には書道が得意な利用者の「書」が掲示してあり、その作品がホームの雰囲気に良く合っている。また、音楽が大きくなりすぎない程度にかけられており、利用者は落ち着いて過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は主にリビングでテレビを見たり、食堂で談話をしたりと、動きのある生活を取り入れている。独りになりたい方は希望にそえて居室に誘導している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けはエアコンのみとし、ベット、タンス等すべて今まで在宅で使用した使い慣れたものを持ち込んでいただくようにしている。畳が希望の方にはベッドではなく畳に布団を使用していただいていた。	居室内に収納スペースを設けていないため、自宅からベッド、使い慣れたタンス、ハンガーラック、椅子などを持ち込み、化粧道具を持ち込み化粧をしている方もいる。また、畳を利用することも可能であり、布団での寝起きも可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	新聞をいつでも閲覧できるようリビングに置いてあり、食事作り、洗濯物など、入居者を生活に巻き込むことを心がけている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームごんの里

## 目標達成計画

作成日: 平成 24 年 3 月 15 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	看護師を常駐させていない為、医療行為が発生した場合、生活できなくなってしまう。	医療行為が発生しても対応できる職員配置にしたい。	特になし	12ヶ月
2	35	災害時の非常食等、備え不足である。	非常時に備えて、食べ物、備蓄品を用意する。	必要物品を全て網羅して買い揃える。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月